



<第3回COC+評価委員会>

「伊勢崎市における『多文化共生社会』 の現実に学ぶ」実施報告

西舘 崇

共愛学園前橋国際大学国際コース講師

2018年3月27日



KYOAI GAKUEN UNIVERSITY



目次

- 背景
- 事業概要
- 目的
- 方法
- 実施内容
- 成果
- 今後の課題

背景（１）

国際都市化する伊勢崎市に隣接する本学。 「多文化共生社会」の創造へ向けて、何ができるか？

伊勢崎市の概要と同市による「多文化共生社会」へ向けた取り組み

【人 口】

200,808人(2017年12月)

【外国人住民】

12,139人(2017年12月)

- ・群馬県で最大
- ・64カ国(ブラジル、ペルー、ベトナム等)

【外国人雇用状況】

6,866人(2017年10月)

※上記の各数値・データについては群馬県HP「外国人住民数の状況」他、厚生労働省群馬労働局「外国人雇用状況の届出集計結果(平成29年10月末現在)」などを参照。

【多文化共生社会へ向けた市の取り組み】

- ・外国人相談窓口
の設置
- ・外国人生活ハンド
ブックの配布
- ・行政文書の翻訳
- ・日本語教室開催
- ・国際ボランティア
- ・多文化料理会 等



広報誌「いせさき」12月1日号(No.311)の表紙。同号特集は「多文化共生」。

背景（２）

国際都市化する伊勢崎市に隣接する本学。 「多文化共生社会」の創造へ向けて、何ができるか？

「多文化共生社会」の現実とは？ 本学と地域とのつながりを生かした事業立案へ

【県による指針の策定】

群馬県多文化共生推進指針(2007)

- ・多文化共生: 国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の一員として、その個性と能力を発揮し、共に生きること。

→群馬県はもとより、伊勢崎市においてはどの程度、達成出来ているのだろうか。Cf. 平成28年「定住外国人実態調査」

【本学の強み】

- ・様々な地域連携事業の実績
- ・国際社会学部に5コース
- ・外国にルーツを持つ在学生らの存在

【地域NPOとの連携】

NPO法人「いせさき協議会 社会貢献ネット」(代表: 本堂晴生)

- ・NPOと地域、関連機関のつなぎ役
- ・本学との地域連携事業の実績



事業概要

【事業名】 伊勢崎市における「多文化共生社会」の現実に学ぶ～本学と地域NPOとの連携を通して～

【代表者】 西舘崇(本学国際コース専任講師)

【連携先】 NPO法人「いせさき協議会 社会貢献ネット」(代表:本堂晴生)

【協力者】 大谷明(群馬県多文化共生推進士)、関根崇(JICA群馬デスク)、田村マリル(伊勢崎市役所市民部国際課)、本学国際コース教員

【期 間】 2017年4月～2018年3月

【目 的】 多文化共生に関する、①学生の学びの機会創出、②主要NPOとの関係構築、③地域との協働の可能性の追求

【内 容】 ①学内における各種講演会等の実施、②学外における各種講演会等への参加、③事業内容の情報発信

【経 費】 講師謝金、イベント開催費、データ打ち込み等

目的

- ①本学学生が群馬県内(特に伊勢崎市)における多文化共生社会の現実を学ぶ機会を提供すること = **学びの機会創出**
- ②伊勢崎市における主要なNPO団体等と本学との関係構築を行うこと = **主要NPOとの関係構築**
- ③本学と地域が「多文化共生社会」の実現に向け、共同して取り組む課題を設定すること = **可能性の追求**

本学

- ・ 多種・多様な背景を有する外国にルーツを持つ学生たちの存在
- ・ 様々な地域連携事業の推進



伊勢崎市

- ・ 群馬県一の外国人居住者数(国籍は60カ国以上)
- ・ 多文化共生に関する様々な取り組みの蓄積

方法

**まずは友人・知人づくりと機会創出に全力投入。
協働の可能性が追求できるかは半信半疑。**

①学びの機会創出

- ・ 学内における講演、イベントなどの実施。
- ・ 学外における勉強会、講演会、シンポジウムなどの情報提供。



②主要NPOとの関係構築

- ・ 連携先NPOとの関係構築
- ・ 連携先NPOをハブとして、様々なイベントに参加。
- ・ 一つの出会いから、イベント参加、ゲスト講演開催などを通して、次の関係へとつなぐ。

③協働の可能性の追求

- ・ 連携先NPOやつながりを持った関係者たちの問題関心や立場に寄り添った形で「課題設定」を行うことで、「協働」から得られる利益を可能な限り最大化。
- ・ 大学が関わることのメリットを明示し、協働型のプロジェクトを企画・立案。
- ・ 成果物・事を学内外に向けた発信活動を通じた、関係者・協力者・協働者へのフィードバックの実施。

実施内容(1)

①学内における各種講演会等の開催

No.1 交流会「フィリピン人コミュニティ『絆』との交流会」(2017年5月27日)

No.2 講演会「日本に住む外国人の子どもたちの人生の現状と課題」(講師：本堂晴生 さん)
(2017年6月7日)

No.3 対談「地域多文化共生を目指す～外国語で日本語を教えることを通して」(講師：若林スエリさん)(2017年6月13日)

No.4 講演「東南アジアからの難民～若い東南アジア人材の活用性」(講師：山本雄次 さん)(2017年7月3日)

No.5 講演「群馬県における中国人強制連行問題」(講師：松永守男さん)(2017年7月5日)

No.6 講演「外国人の人権について～群馬における諸事例から考える～」(講師：下山順さん)
(2017年7月21日)

No.7 特別セッション「世界のリズムを奏でよう～多文化共生社会の創造へ向けて～」(講師：清水和美さん・スマイルビート代表)(2017年10月21日)

No.8 講演「私の隣人～ともに創る暮らしの安心」(講師：木村栄子さん・他、自衛隊群馬地方協力本部)(2017年11月20日)

No.9 講演「アフリカにおける国際協力に学ぶ」(講師：関根崇さん・JICA群馬デスク)(2017年12月7日)

No.10 講演「伊勢崎市における国際化と多文化共生の現在」(講師：吉田佑美さん・伊勢崎市役所市民部国際課)(2017年12月13日)

No.11 講演「群馬県における中国残留孤児・残留婦人」(講師：松永守男さん・日中友好協会群馬支部支部長)(2018年1月17日)

No.12 講演「前橋市国際交流協会における活動」(講師：中根良一さん・前橋市国際交流協会事務局長)(2018年1月24日)



No.1 交流会「フィリピン人コミュニティ『絆』との交流会」 (2017年5月27日)の様子



No.7 特別セッション「世界のリズムを奏でよう～多文化共生社会の創造へ向けて～」(講師:清水和美さん・スマイルビート代表)(2017年10月21日)の様子

世界のリズムを奏でよう

～多文化共生社会の創造へ向けて～



世界各国・地域の様々な楽器を実際に演奏することを通して、世界各国・地域の様々な文化や伝統、民族芸能に触れる機会を提供します。

またそれぞれの楽器が奏でる「音」の背景と起源を知ること、言葉によらない世界とのつながり、多文化が共生することの楽しさと素晴らしさを体感することができます。

2017年10月21日(土) 13:00～16:00

共愛学園前橋国際大学 1101 教室

国際コースと地域連携シリーズ(特別セッション)

○第一セッション

13:00 プログラム開始

- ・世界の楽器についてのプレゼン(清水氏)と演者たちによる実演
- ・来場者全員によるドラムサークル
- ※ドラムサークルは輪になって世界の打楽器をみんなで演奏する活動です。
- ・参加者による感想・コメントの共有

14:15 閉会

○第二セッション

14:45 プログラム開始

- ・世界の楽器についてのプレゼン(清水氏)と演者たちによる実演
- ・来場者全員によるドラムサークル
- ※ドラムサークルは輪になって世界の打楽器をみんなで演奏する活動です。
- ・参加者による感想・コメントの共有

16:00 閉会



No.10講演「伊勢崎市における国際化と多文化共生の現在」(講師:吉田佑美さん・伊勢崎市役所市民部国際課)(2017年12月13日)の様子

(多文化共生社会Ⅱ、海外フィールドワーク)

伊勢崎市における 国際化と多文化共生の現在

2017年12月13日(水曜日) 4限(14:20~15:50)
4204/05教室

●講師：吉田佑美 様

●伊勢崎市市役所市民部国際課

本講義は、「地（知）の拠点整備事業（COC）」地域志向教育研究費を受けて、行われています（代表：西館）





実施内容(2)

②学外における各種講演会等への参加

- 1) 「自由な討論の場」(NPO法人「いせさき協議会 社会貢献ネット」主宰) への参加
- 2) 群馬県委託事業「外国人コミュニティコーディネーター養成講座」(同上、NPO法人受諾) への参加
- 3) 外国人が教える日本語教室(NPO法人「いせさき協議会 社会貢献ネット」主宰) 視察
- 4) 「いせさきグローバルネットワーク～多文化共生から地域の活力へ～」パネルディスカッション「実体験から紐解く、多文化共生」(伊勢崎市青年会議所主催) への参加

③事業内容の情報発信

- ・大学HPを利用した事業内容の情報発信



検索結果：国際コースと地域

【国際コースと地域連携シリーズ No.12】 講演「前橋市国際交流協会における活動」（講師：中根良一さん・前橋市国際交流協会事務局長）を開催しました！

1月22日（月）、本学において、講演「前橋市国際交流協会における活動」が開催されました。「国際コースと地域連携シリーズ」としては第12回目となります。ゲスト講師は中根良一さん（前橋市国際交流協会事務局長）です。講演には「グローバル市民社会論」履修者のほか、本学希望者らが参加しました。講演ではまず、前橋市における在住外国人の実態についてお話し頂き、その上で国際化における課題として、（1）国...

【国際コースと地域連携シリーズ No.11】 講演「群馬県における中国残留孤児・残留婦人」（講師：松永守男さん・日中友好協会群馬支部支部長）を開催しました！

1月17日、本学において、講演「群馬県における中国残留孤児・残留婦人」が開催されました。「国際コースと地域連携シリーズ」としては第11回目となります。ゲスト講師は松永守男さん（伊勢崎市役所市民部国際課）です。講演には「中国現代事情」履修者のほか、本学希望者らが参加しました。講演ではまず、中国残留孤児・残留婦人の概要について、歴史的な背景と共に説明頂きました。次に、1940年代に満州へ渡り、敗戦...

【国際コースと地域連携シリーズ No.10】 講演「伊勢崎市における国際化と多文化共生の現在」（講師：吉田佑美さん・伊勢崎市役所市民部国際課）を開催しました！

12月13日、本学において、講演「伊勢崎市における国際化と多文化共生の現在」が開催されました。「国際コースと地域連携シリーズ」としては第10回目となります。ゲスト講師は吉田佑美さん（伊勢崎市役所市民部国際課）です。講演には「多文化共生社会II」「海外フィールドワーク」履修者のほか、本学希望者らが参加しました。講演ではまず、伊勢崎市における国際化の現状や伊勢崎市に住む外国人住民数の...

【国際コースと地域連携シリーズ⑨】 講演「アフリカにおける国際協力に学ぶ」（講師：関根崇さん・JICA群馬デスク）を開催しました！

12月7日、本学において、講演「アフリカにおける国際協力に学ぶ」が開催されました。「国際コースと地域連携シリーズ」としては第9回目となります。ゲスト講師は関根崇さん（JICA群馬デスク）です。講演には国際コース「地域共生」履修者のほか、本学希望者らが参加しました。関根さんは昨年...

2017年度 学位記授
与式を行いました
(2018/03/23)

3月10日オープンキャンパスを開催しました
(2018/03/12)

平成29年度「グローバル人材フォーラム」
開催のお知らせ
(2018/03/01)

「パソコンすてっぷあ
っぷ講座」を開催しま
した(2018/02/27)

「長期インターンシッ
プ報告会」を開催しま
した(2018/02/15)

国際コースが卒業研究
発表会を開催しました
(2018/02/13)

2017年度児童教育コ
ース卒業研究発表会を
開催しました
(2018/02/09)

2018業界研究セミナ
ーを開催しました
(2/6,7)
(2018/02/09)

【国際コースと地域連
携シリーズ No.12】
講演「前橋市国際交流協
会における活動」
(講師：中根良一さん・前橋市国際交流協

会 講演「前橋市国際交流協会における活動」(講師：中根良一さん・前橋市国際交流協会事務局長)を開催しました！

【国際コースと地域連携シリーズ No.12】 講演「前橋市国際交流協会における活動」(講師：中根良一さん・前橋市国際交流協会事務局長)を開催しました！

1月22日(月)、本学において、講演「前橋市国際交流協会における活動」が開催されました。「国際コースと地域連携シリーズ」としては第12回目となります。ゲスト講師は中根良一さん(前橋市国際交流協会事務局長)です。講演には「グローバル市民社会論」履修者のほか、本学希望者らが参加しました。

講演ではまず、前橋市における在住外国人の実態についてお話し頂き、その上で国際化における課題として、(1)国際交流の推進、(2)多文化共生の対応、などについて説明頂きました。次に、国や県、各市町村、民間団体による各種取り組みの概要についてお話し頂きながら、前橋市国際交流協会の活動について具体例を交えながら詳しく共有頂きました。

講演の後には「そもそも「交流」はなぜ必要なのか」「そもそも「異なること」ってなぜ良いのか」などについてグループディスカッションを行いました。地域に生きる一学生として、私たち自身にも「多文化共生」「国際交流」において何ができるか、多くのヒントを頂きました。

貴重な学びの機会を与えて下さった中根さんに、この場をお借りして、心からのお礼を申し上げます。

※本講演は、国際コース全体で取り組んでいるプロジェクト「群馬県伊勢崎市における『多文化共生社会』の現実に学ぶ～本学と地域NPOとの連携を通して～(代表：西館崇)」によるもので、本学の「地(知)の拠点整備事業」地域志向教育研究の一環として行われたものです。



成果 ～実践的側面（１）

学生の地域社会（特に多文化共生に関わる）に対する気づき、考察、発展的演習へのきっかけ作り

【学生のコメント(例)】

「生まれてから今まで群馬に住んでいるのに、こんなにも多くのフィリピン人の方々が住んでいるなんて全く知らなかった。これを機にフィリピンについて調べていきたい」「日本のことを私たち以上に知っていて、考えていることにすごく驚いた。共生のために何ができるか、私もしっかりと考えたい」(No.1 交流会より)。「自分は日本での外国人の権利の話を聞いたことがありませんでした。今日の話は初めて聞いたものが多く驚きが多かったです」(No.6 講演会より)。

【発展的演習(例)】

・学生による論文「地域社会を考える一小中学校における外国籍児童と日本人児童の関わり方を通して多文化共生社会を築く」の執筆。「第9回 青雲塾・中曽根康弘賞」論文コンクールでの受賞。



授賞式の様子

成果 ～実践的側面（２）

連携先NPOをハブとした「つながり」の連鎖が、 学生のさらなる学びの幅を拡大

【つながりから生まれた学びの幅の拡大】

- 1) 「いせさきグローバルネットワーク～多文化共生から地域の活力へ～」パネルディスカッション「実体験から紐解く、多文化共生」（伊勢崎市青年会議所主催）への参加
- 2) 「国際交流サロン in Maebashi-Benten-House」にて本学学生（国際コース2年）がパネリストとして登壇。（前橋国際交流協会・多文化共生ぐんま主催）
- 3) 平成 29 年度 多文化共生シンポジウムにて本学学生（英語コース1年）が報告者及びパネリストとして登壇（群馬県多文化共生課主催）
- 4) 平成29年度「多文化共生講演会・シンポジウム」、第2部シンポジウム「外国人住民と共に乗りこえる災害～『支える』から『支えあう』へ～」（伊勢崎市市民部国際課主催）へ西舘がコーディネーターとして参加。

※下線部は連携先NPOからの紹介からつながった
協力・連携先



国際交流サロンの様子



多文化共生シンポジウムの様子

No.3 対談「地域多文化共生を目指す～外国語で日本語を教えることを通して」（ 講師：若林スエリさん）（2017年6月13日）の基礎テキストデータ

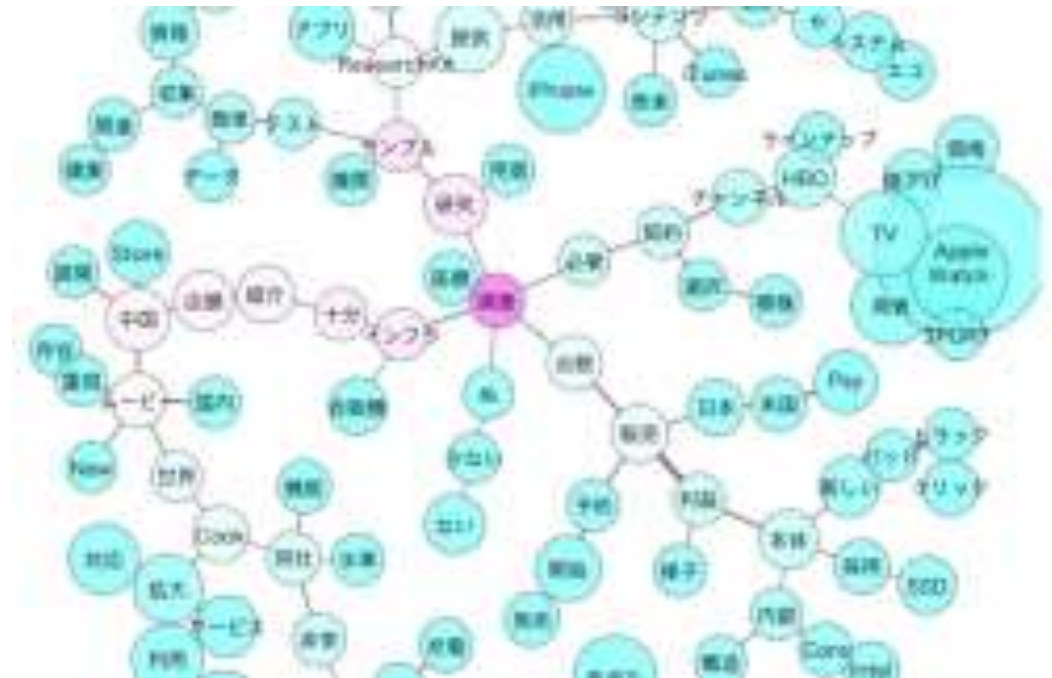
D17										
A	B	C	D	E	F	G	H	I		
2017/6/13	国際社会の諸問題/									
地域多文化共生を目指す～外国語で教	講師：若林スエリ				総回答数	98				
					有効回答	97				
					非有効回答	1	記述なし		0	
							判読不能		1	
016～	1	外国の子供を預かる保育園のようなものがあると知って驚いた。外国から来た人が暮らしやすいよう、スペイン語、ポルトガル語、英語、ベ								
	2	外国人のためにこうしたNPOがあるととても助かると思います。日本は英語が通じないのでやはり日本語が分からないと住むのが大変になつ								
	3	今回のお話を聞いて、外国人日本語教室がとても身近になりました。今までは、どこか他人事であまりよくわからなかったのですが、様々な視								
	4	若林さんの話を日本の外国人を受け入れるというシステムの工夫を知ることができました。さらに良いシステムにすることを話されていたの								
	5	防災マップがとても見やすかった。1つは日本語の隣に英語があるので、何がどこに書いてあるのか、すぐに分かった。もう1つは、外国の								
	6	若林さんは様々な言語を喋れるが、その反面苦労している部分もあるんだなあと思いました。母国語が日本語じゃないので発音や、イントネ								
	7	今日、若林さんの話を聞いて、伊勢崎市で日本語教室を開催していることを初めて知りました。また、63か国の多くの国から外国人が来て								
	8	やはり日本で暮らしていくには日本語を喋れることが必要になってくるのだなと思った。話を聞いていて日本語のイントネーションが難しいと								
	9	外国人からしたら、異国である日本の伊勢崎に住むのは、不便なことも多いと思うけど、このような制度がたくさんあつて、心強いのではない								
	10	以前、ボランティアの講習会で、若林さんのように日本に住む外国人のために活動を行っている方のお話を聞いたことがありました。自分から								
	11	母国から全く知らない 新しい土地 に来て、常に学び他の外国人のための活動をしている若林さんの熱意に感動しました。若林さんのような活動								
	12	私の知らないところで起きている話を聞いて、視野が広がった。								
	13	私の母がフィリピンから来ているため、共感できる箇所がいくつかあつた。特に「つ」や「ちゅ」、日本独特な言い回しがなかなか理解でき								
	14	始めたことだけに留まらず、それを基に更に大掛かりなことを目指す姿勢に圧倒された。今回のことで今まで確立がたつたグローバルのイメー								

No.3 対談「地域多文化共生を目指す～外国語で日本語を教えることを通して」（講師：若林スエリさん）（2017年6月13日）の基礎テキストデータ（1回以上の語の出現件数）

	A	B	C	D	E
1	語	品詞	1年生	2年生	
2	外 国人	名詞	24	21	
3	日本 語	名詞	17	19	
4	思い	動詞	21	13	
5	日本	名詞	19	10	
6	私	名詞	12	12	
7	活動	名詞	12	9	
8	日 本人	名詞	10	7	
9	難しい	形容詞	7	7	
0	伊勢崎 市	名詞	8	6	
1	教え る	動詞	6	5	
2	知 る	動詞	6	5	
3	日本 語 教室	名詞	7	4	
4	多 い	形容詞	5	5	
5	ない	形容詞	4	6	
6	大変	形容詞	7	3	
7					

言語データに基づく分析の可能性

- ・ 学生の多文化共生や国際関係に対するイメージや考えの背景（心象地図や認知地図などと呼ばれる）を可視化。
- ・ 共愛12の力（例えば「共生のための態度」「グローバル・マインド」等）、の可視化。
- ・ プロジェクト・事業参加学生と不参加学生との比較分析。 等



言語データを用いたネットワーク図(イメージ)

(創新ノート: <http://note.soushin-lab.co.jp/archives/686>より抜粋)

成果 ～「COC+」スキームから見た本事業の意義

伊勢崎地域の特色（外国人住民の大幅な増加に伴う一地方自治体の急激な国際化）に対する本学からの働きかけ

COC+の目的

- ・「大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる『ひと』の地方への集積を目的」とする。（文部科学省HP「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」より）

【国際化の進む伊勢崎地域が求める人材育成と基礎体力作り】

- ・現場で活躍する人々や各種講演会等から、伊勢崎地域の現状を知り、現状から学ぶ。これにより、自らの地域について考察、地域での生き方を模索。
- ・地域社会との将来的な協働へ向けた人的つながり・ネットワークの構築。
- ・就業支援という点では大きな課題。



今後の課題

- ①学外における講演会や勉強会等への学生の参加
- ②外国にルーツを持つ学生の就業支援のあり方の検討
 - (参考)平成29年度群馬県多文化共生推進士連携事業「伊勢崎市地域産業での留学生インターンシップによる多文化共生職場づくり実践活動」の実践
 - 西舘崇(2018)「留学生による伊勢崎地域インターンシップ事業の意義」『共愛学園前橋国際大学論集』第18号(近刊)
- ③地域(市政やNPO、専門家ら)との持続的かつ発展的な協力関係の構築
- ④言語データの集積と分析の精緻化



**皆様のお力添えとご協力・ご清聴に
心からの感謝を申し上げます。**



KYOAI GAKUEN UNIVERSITY